

## 化学物質等安全データシート (SDS)

作成日 : 2019年10月11日

作成基準 : JIS Z 7250-2005 に準拠

### 1. 化学物質等および会社情報

化学物質等の名称	ポリカーボネート樹脂
製品名	K-30CF10
会社名	株式会社 コテック
住所	大阪府堺市南区茶山台 3-21-15
担当部門/電話番号/FAX 番号	品質保証部/072-294-8711/072-294-8533
緊急連絡先/電話番号/FAX 番号	和歌山工場/0736-77-0771/0736-77-0775
推奨用途及び使用上の制限	熱可塑性の合成樹脂成型材料 ・食品包装材料、並びに医療器具に使用する用途については、使用される国それぞれに法律による制限や、業界による自主的な規制が存在します。本製品は、これらの規格を保証するものではありません。

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

現時点において、分類対象外又は区分外である。

絵表示 : 該当しない

注意喚起語 : 該当しない

危険有害性情報 : 該当しない

構成成分	GHS 分類
ポリカーボネート樹脂	分類対象外
酸化防止剤	分類対象外
離型剤	分類対象外
カーボンファイバー	分類対象外
カーボンブラック	分類対象外

### 3. 組成および成分情報

単一成分・混合物の区分 : 混合物

成分	含有量	CAS No.	化審法 No.
ポリ-4,4'-イソプロピリデンジフェニルカーボネート	≥ 68%	25971-63-5 及び 又は 25929-04-8	7-738
酸化防止剤	≤ 0.5%	非開示	非開示
離型剤	≤ 0.5%	非開示	非開示
カーボンファイバー	10%	非開示	非開示
カーボンブラック	≤ 1%	1333-88-4	5-3328

主成分の化学式 :  $[-O-C_{15}H_{14}O-CO-]_n-$

## 4. 応急処置

皮膚に付着した場合、溶融樹脂が付着した場合は、直ちに水で冷やし、医師の手当てを受ける。

溶融樹脂からの発生ガスの凝縮物が付着した場合は、石鹼水でよく洗う。

目に入った場合、水道水などのきれいな水で、洗い流す。異常があれば、医師の手当てを受ける。

吸入した場合、溶融樹脂から発生するガスを吸いこんだ場合は、新鮮な空気のある場所に移動する。

異常があれば、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合、できるだけ吐き出し、異常があれば、医師の手当てを受ける。

## 5. 火災時の処置

消火剤：水、粉末消火剤、泡消火剤が使用できる。

火災時の措置に関する危険有害性：一酸化炭素などの有害ガスが発生する。

保護具：防火服、防火手袋、呼吸器具、ヘルメット等を着用して消火活動を行う。

## 6. 漏出時の処置

人体に関する注意事項：床にこぼれたペレットにより、転倒の恐れがあるので、床上から回収、清掃する。

保護具および緊急措置：保護メガネ、ゴム手袋、防塵マスク等を着用して処置する

環境に対する注意事項：排水系などに流出した場合は、沈降するので排水ピットで全量回収する。

回収・中和：知見なし。

封じ込め及び浄化方法・機材：知見なし。

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い：常温では、引火の恐れは少ないが、火気をみだりに使用しない。

成形加工時は、発生するガスを吸入しないように、局所排気装置を加工機に設置する。

熱分解するので、成型機に高温で長時間滞留させない。

溶融樹脂により、火傷の恐れがあるので、溶融樹脂に触れないようにするとともに、溶融樹脂が

飛び出し、火傷しないように、飛び出し保護設備を加工装置に設置する。

保管：直射日光の当たらない、発火源から離れ、乾燥した場所に保管すること。

## 8. 暴露防止および保護処置

管理濃度・許容濃度：未設定。ペレットであり粉塵飛散は想定していない。

暴露を軽減するための設備対策：成形加工時の熱により、樹脂が分解し、有害ガスが発生する可能性があり、

成形加工機に局所排気装置を設ける。

溶融樹脂により、火傷の恐れがあるので、溶融樹脂に触れないようにするとともに、溶融樹脂が飛び出し、

火傷しないように、飛び出し保護設備を加工装置に設置する。

適切な保護具：作業メガネ、耐熱手袋、長袖の作業着を着用する。

## 9. 物理的および化学的性質

形状：ペレット

物理的状态：固体

臭い：なし

ガラス転移温度：約 145℃

引火点：520℃以上 1)

発火点：550℃以上 1)

融点：なし

比重：1.37

溶媒に対する溶解性：水に不溶、塩化メチレン、テトラヒドロフランに溶解

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 室温で安定

反応性 : 通常使用条件では反応性なし。

避けるべき材料 : 知見なし

有害分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、ビスフェノールA、メタン、フェノール化合物など

可燃性 : 酸素指数26以上であり、燃えにくい。

自己反応性 / 爆発性 : なし

## 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 データなし

皮膚 データなし。ポリマーのため皮膚への浸透や吸収はない。

吸入(粉塵) データなし

皮膚腐食性・刺激性 : データなし。物理的な刺激が発生することがある。

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : データなし。物理的な刺激が現れる可能性がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 知見なし

生殖細胞変異原性 : 知見なし

発がん性 : IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載なし。

生殖毒性 : 情報なし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 情報なし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : 情報なし

吸引性呼吸器有害性 : データなし

## 12. 環境影響情報

ポリマーのため、水生生物への有害性は少ないと推測される。

生態毒性 : データなし

残留性/分解性 : データなし

生物蓄積性 : データなし

壤中の移動度 : データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

埋め立てるときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、公認の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託してその処理をする。

焼却する場合は、焼却設備を用いて、大気汚染防止法等の諸法令に適合した処理を施して焼却する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号 : 非該当(非危険物)

国連分類 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

空送を行う場合は、静電気災害防止対策をとる。

梱包が破れないように、水漏れや乱暴な取扱を避ける。もし、破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。

## 15. 適用法規

労働安全衛生法 : 既存化学物質  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
消防法 : 非該当  
化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当  
船舶安全法 : 非該当  
航空法 : 非該当  
廃掃法 : 該当する (13項の廃棄上の注意を参照)

## 16. その他の情報

引用文献

- 1) R. M. Asseva and G. E. Zaikov "Combustion of Polymer Materials"  
Hanser Publishes P46(1986)